

『世界遺産登録推進国際シンポジウム2016』開催



平成28年12月11日(日)に、富山県民会館にて「日本固有の防災遺産－立山砂防の防災システムを世界遺産に」というテーマで世界遺産登録推進国際シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、国内外の有識者の方々を始めとして、立山砂防の顕著で普遍的な価値や世界遺産登録へ向けた今後の戦略について議論がなされました。

世界遺産登録推進国際シンポジウム2016
「日本固有の防災遺産－立山砂防の防災システムを世界遺産に」

○日時：平成28年12月11日(日) 14:00～17:00
 ○会場：富山県民会館304号室

～プログラム内容～

- ◆講演1：『自然と共生した世界に誇れる防災遺産・立山砂防』
 講師 石井 隆一 氏 (富山県知事)
- ◆講演2：『立山砂防の防災システム
 －その顕著で普遍的な価値の包括的考察』
 講師 西村 幸夫 氏 (日本イコモス国内委員会委員長)
- ◆ユースプログラム発表
- ◆パネルディスカッション

講演1 『自然と共生した世界に誇れる防災遺産・立山砂防』



石井 隆一 氏 (富山県知事)

立山砂防は富山県民が土砂災害と果敢に戦ってきた象徴である。近代的な防災技術の典型であり、立山砂防のような防災遺産は世界にも類似したものは存在しない。

講演2 『立山砂防の防災システム－その顕著で普遍的な価値の包括的考察』



西村 幸夫 氏 (日本イコモス国内委員会委員長)

立山砂防の総合的な水系管理技術は近代における到達点であり、顕著で普遍的な価値である。きわめて災害の多い国・地域において発展した顕著な実例であり、自然と調和した防災技術である。

パネルディスカッション
 国内外の有識者を交えて「立山砂防の価値」、「他との類似性」、「今後世界遺産登録に向けて」というテーマで議論がなされました。



コーディネーター
 西村 幸夫 氏
 (日本イコモス国内委員会委員長)



パネリスト
 アンドレアス・ゲッツ 氏
 (前スイス環境庁次官)



パネリスト
 五十畑 弘 氏
 (日本大学生産工学部教授)



パネリスト
 クリスティナ・キャメロン 氏
 (モントリオール大学教授)




パネリスト
 松浦 晃一郎 氏
 (前ユネスコ事務局長)



パネリスト
 石井 隆一 氏
 (富山県知事)

ユースプログラム発表



ユースプログラム発表では、プログラムメンバーである学生からの活動報告と学生目線から見た立山砂防の世界遺産登録に向けた提言について発表されました。

「世界遺産の中の土木」



白岩砂防堰堤のパネル展示

参加者約200名

会場の状況




ゲッツ氏 アコーディオンによる説明